

奈良市のDOTS事業



奈良市保健所保健予防課
保健予防係長
凧 初子

はじめに

本市の結核罹患率は、平成13年の43.2をピークに減少傾向にあります。平成16年全国罹患率23.3に比べて依然高い傾向にあり、新登録患者数112名、罹患率30.8となっています。喀痰塗抹陽性率は全体の3分の1を占め、新登録患者の年齢別では60歳以上が55.4%となっています。

平成12年に「日本版21世紀型DOTS戦略」が発表され、大阪など都市部のDOTS事業報告を聴き、「結核は薬を飲めば治る。本市でも服薬支援を始めよう」と強く決意しました。中核市として発足した平成14年度は、結核登録された患者を内服終了まで支援していくことを目標に、服薬中断が予想される患者への訪問・電話による支援を強化しました。15年度は地域DOTSの対象を喀痰塗抹陽性患者に広げるとともに、看護師・准看護師をDOTSナースとして養成する在宅支援者養成講座を開催しました。以来、本市では「すべての患者に、支援計画に基づいた月1回以上の支援」を目標にDOTS事業を行っているところです。

患者支援の内容

本市では、患者や家族の人権に配慮し、本人の了解のもとに服薬支援を行っています。初回面接時に、確実な服薬が継続して出来るように、「治療開始から治療終了まで医療機関と保健所が連携して支援すること」や、「入院中は看護師、退院後は保健師が服薬確認を行うこと」を伝えています。さらに、月1回病院へのお見舞い訪問を行い、地域DOTS支援開始に向けた信頼関係づくりに重点をおいています。

奈良医療センターと県・市保健所では、定例的に月1回DOTSカンファレンスを開催し、退院後に内服継続に困難をきたすと判断した患者について、医療・保健のチームで情報を共有し、課題を検討し、患者を確実に治療終了まで支援できる体制をつくっています。また、奈良医療センターで入院治療を行っている全患者については、退院1～3日前

に病棟看護師長から保健所へ電話連絡が入るので、担当看護師等から入院中の患者の状況や服薬を困難としている情報をアセスメントシートにて聞き取りを行います。その後、患者面接にて服薬支援計画の同意を得て、院内DOTSから地域DOTSへと連携した支援に繋がっています。

事例紹介1

・患者の背景

37歳男性 行路病者 肺結核 ガフキー10号
行路者であったが、建設会社の寮に入寮後に発病

・DOTSカンファレンス

退院前DOTSカンファレンスにて、病院スタッフから服薬中断の可能性が高いと指摘あり。

・服薬支援

保健所ポストへ1週間分の空袋を投入してもらい、服薬確認を実施。

退院後、すぐに職場復帰。仕事の忙しさから毎日の来所は困難となるが「結核は内服すれば治る病気であり、治療終了まで支援させてもらいたい」と伝え、本人とどうすれば忘れず内服できるかを検討。週末に1週間分の空袋を保健所のポストへ投入し、週明けに保健師が確認。月1回の外来受診後は保健所へ来所面接をし、DOTS手帳に捺印することとし、平成16年10月治療終了となった。

事例紹介2

・患者の背景

62歳男性 囁託職員であったが、入院後無職
肺結核 ガフキー2号

定期健診事後管理の不徹底、生活費困窮を理由に受診拒否していた。

・DOTSカンファレンス

生活困窮による治療中断の可能性が指摘され、退院前DOTSカンファレンスにて検討した。

・服薬支援

月曜日から金曜日は保健所来所にてDOTを実施し、

DOTS手帳に捺印。土・日・祝日は喫茶店主にDOTを依頼、空袋は翌日本人が保健所へ持参した。

平日は、保健師とDOTSナースが日替わりでDOTを実施。悪天候の中や二日酔い等体調がすぐれない日も休まず来所される。来所DOTS延べ199回、11ヵ月間の人と人とのつながりの中で平成17年8月治療終了となった。

地域DOTSを行うことで、通院患者の継続的な支援が可能となり、結核登録患者における地域DOTS実施率が増加し、保健師、DOTSナースによる患者支援の回数が著しく増加しました。(表1) 喀痰塗抹陽性患者の登録から12ヵ月後の服薬支援状況では、平成14年患者1人あたりの平均服薬支援回数は4.2回。平成15年は13.5回。平成16年登録の1月から5月までの患者では、18.6回と支援回数は増加しています。平成15年地域DOTS開始以降、内服終了まで支援を継続することで治療が成功し、地域DOTS開始以降、治療失敗・中断者がでていません。

表1 登録時喀痰塗抹陽性患者地域DOTS実施内容 (H17.8.31現在)

登録年	DOTS対象者数(人)	地域DOTS実施数と割合(%)	地域DOTS内訳(人)			月1未満(人)
			A(毎日)	B(週1以上)	C(月1以上)	
H14	26	7(37.1)	0	3	4	19
H15	30	21(70.0)	0	14	7	9
H16	28	25(89.3)	2	9	14	3

所内DOTSカンファレンス

構成員：保健所医師、保健師、DOTSナース
内容：隔月開催のDOTSカンファレンスでは、薬箱等確実に服薬していただくための工夫の情報交換や支援方法評価や計画の見直しを行っています。(H16年度：4回開催、46事例)

コホート検討会

所内コホート検討会
平成16年4月から毎月定例としたコホート検討会は、保健所医師と保健師全員が参加し、治療中の結核登録患者全員(初感染結核を含む)の登録4ヵ月後と12ヵ月後にそれぞれの評価指標と目標値を定めて行っています。平成16年度は、4ヵ月後108例、12ヵ月後40例の検討を行いました。

登録4ヵ月後では、所定の様式により培養検査結果把握率、感受性検査結果把握率、定期外健診実施状況、療養支援状況等について確認し、患者支援困難事例や治療困難事例に対するタイムリーな検討

を行い、情報把握漏れを見直し、標準化された患者支援が可能となっています。(表2)登録12ヵ月後では、所定の用紙を用いて治療状況、支援方法、定期外健診要否検討会の結果に基づいた受診状況の確認をして課題を明らかにしています。(表3)

表2 結核新登録4ヵ月後の状況

開催月	対象月	面接(2W以内)	喀痰塗抹検査確認	培養確認(3M以内)	感受性検査確認(4M以内)
4月	H15.12	100%	100%	100%(75%)	85.7%(85.7%)
5月	H16.1	100%	100%	100%	100%
...

表3 結核新登録12ヵ月後喀痰塗抹陽性者コホート分析の結果の年次推移

登録年(年)	新登録塗抹陽性患者数(人)	DOTS実施数/対象者数(人)	地域DOTS実施率	DOTS実施者治療成功率	肺結核患者治療成功率()内は塗抹陽性患者	
					脱落	中断率
H13	49	0/0	-	-	75.4(76.1)%	3.3%
H14	34	7/26	26.9%	100.0%	69.1(75.0)%	3.6%
H15	39	21/30	70.0%	100.0%	78.0(74.9)%	0.0%
H16	40	25/28	89.3%	-	-	-

入院中、入院中の死亡、転症を除く H17.8.31現在

年1回コホート検討会

平成15年度から医療機関と合同で、前年度喀痰塗抹陽性肺結核患者等を対象に、結核研究所からの専門家を交えてコホート検討会を開催しています。コホート検討会を開催して、喀痰培養検査・薬剤感受性検査結果の把握が改善し、他の業務で忙しくても服薬支援を優先して、計画に基づいた患者への支援が徹底されるようになりました。また、医療機関と合同で会議を開催し、コホート結果を還元することで、薬剤部や検査部へもDOTSの理解を深める機会となりました。

おわりに

以上、奈良市のDOTS事業の概要を紹介いたしました。今後もさらに医療機関と保健所が「患者の治療終了」を共通の目標に掲げ、両者が患者に対して責任を持った支援を継続して行きたいと思っています。量的なサービスの向上ができてきた中、質的なサービスの評価はこれからの課題といえます。現在は平成16年奈良医療センターを退院した患者を対象に服薬支援アンケート調査を実施中ですが、これからもアンケートやコホート検討会で支援の評価をくり返しなが、温かい支援が提供できるよう努めていきたいと思っています。